

練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第13回）「キャリア教育の推進」部会 要点録

開催日時	平成22年7月13日(火) 午後3時02分～午後5時20分	
会場	練馬区役所本庁舎12階 教育委員会室	
出席者	委員	廣嶋憲一郎、石井友行、小野雅保、世古徳浩、安井実、望月徳生、根本裕美、野田恵威子、高橋吉久（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	鈴木裕行 指導主事

1 挨拶

部長

だんだん折り返し地点に近づいてきており、いろいろな意見を活発に出し合い、早く終結に向かいたいと思う。

事務局

それでは、原稿の書式を確認したい。ここに書いてある通り、余白は上下左右25mm、字数40字、行数45行、フォントは明朝体の10.5ポイントを基本とする。これを基本形に、作りづらところは修正しながら作っていきたい。それから、ページの割り振りと事例の関係について石井校長先生から資料を頂いた。

委員

そろそろ私たちが部会として作成する学習指導案、ワークシートの全体像を意識してイメージしながら話し合いを進めるといいと思い、ページの割り振りがわかるようにメモ用紙代わりに作ってきた。前回、ワークシートを入れて1事例6ページ、トータルで70ページと話が出ていた。鈴木先生、事務局が担当する1から3までは見当として何ページぐらいになるだろうか。

事務局

これはほかの部会と共通の形を作っていくので、それも含めて70ページ。

委員

学習指導案、ワークシートは一応60の枠まで作ってみた。

2 協議

アドバイザー

そうすると事例が10個ぐらい要るのか。

委員

当初の説明の中に各部会70ページ程度という数字があり、事務局の1から3までは10ページぐらいかと勝手に考えて、一応60ページの枠まで作ってきた。70ページはもう少し減って

も大丈夫か。

事務局

当初、事例の数とページを合わせて計算してうまく収まったので6ページ前後でいけると踏んだが、70の数字は再確認する。

アドバイザー

とりあえず6事例6ページでいいのか。

委員

4の学習指導案・ワークシートの冒頭に何か議論なり私たちの共通認識なりのページを入れるかどうかにもよる。ここではいきなり事例1に入っている。とりあえず1事例6ページでいくとすると36ページぐらいで終わってしまうので、例えばワークシートを膨らませるとか、本時の展開をもう少し見やすくするとか、あるいはねらいや指導計画あたりを丁寧に書く、その辺の話も進められるといいと思う。

例えば事例1は「リトルティーチャー」の原稿を基に入れてみた。そこに書いてあるように1ページ目は「リトルティーチャー」のねらいや指導計画、指導によって期待できる効果。あと、小野先生から示していただいた本時の展開が3種類。そしてワークシートが2枚分ぐらい入る。そうすると1事例6ページ。一応参考に入れてみた。

部長

本時の展開は、例えば1年生、2年生、3年生と入れ、仮に1年生のワークシートに、今回はこのようなものを見つけてきたが、いわゆる赤本、教師用指導書のように指導案プラス解説・コメントのようなものを入れるとワークシートの的に使えるかと思う。

委員

例えば、ワークシートもすぐコピーして印刷できるワークシートと、使い方を解説してコメントを入れたワークシートの2ページという考え方もできる。

事務局

前々回、6ページで事例を挙げると10事例必要で、4ページペースなら15事例必要だという議論をしている。現在6事例まで作っているが、6ページの分量であと4事例載せることになる。事例を増やすならば今日その分担をしなければいけないし、何を載せるかの協議も必要になる。

委員

ベースになる部分は事務局が入れるのか。

事務局

全体像はそうだ。

委員

冒頭の1、2、3は中間報告書記載の指導プラン例があったが、中間報告書の内容はどの程度入るのか。

事務局

まだ具体化していないのでこれからの検討になる。

事務局

では、ページの割振りと事例の関係を整理したい。6ページでいくと10事例になり、昨年度の21事例を活用するのであればそこから拾っていくが、そのあたりはいかがか。

部長

去年の事例6までと今回作ってもらった事例6までで、オーバーラップしているところとしていないところはどうか。「この町大好き」は「がっこうだいすき」とは違うのか同じなのか。

アドバイザー

「この町」と「がっこう」は中身が違う。

部長

そうすると、もし「この町大好き」を入れると別事例としてプラス1できる。それから「マンガ家になろう」もプラスとして考えられる。今の段階で、ももし仮に「この町大好き」と「マンガ家になろう」を入れたとすれば8事例までは膨らませることができる。「マンガ家になろう」と「この町大好き」はどなたが作ったのか。メンバーが変わってしまったのか。

アドバイザー

「この町大好き」は根本先生が作った。「マンガ家になろう」は岡本教頭先生が作った。

部長

岡本教頭先生は石西の校長先生になられたので、執筆者がいなくなってしまった。

委員

そうするとどんどんⅡ期・Ⅲ期の事例が多くなる。

アドバイザー

小学校3、4年生と中3の事例が欲しい。

委員

数を増やすとなると「1/2成人式をしよう」など中間報告書にある「キャリア教育」実践

プラン例の表の左のものがほしい。

部長

この際、やはり事例を新しく作らなければ駄目だろうか。

委員

そうすると望月先生、新しい企画はあるだろうか。

委員

この間のお話ではコンピュータで何か作成をとのことだった。

委員

小中一貫にこだわるとなかなかないので、あまりこだわらないでとのことだった。

委員

7事例で8ページ、 $7 \times 8 = 56$ ページではどうか。

事務局

ページ数はまだ残りがあるが問題ないと思う。短い4ページで事例が挙げられそうな気がする。

委員

やはり60ぴったり使い切ったほうがいい。

事務局

事例が多いほうが今後いろいろ役立つと思う。

部長

私たちはこういうものを作ってあるのでまだ事例を出せるネタがあるが、ほかの部会は事例5～8など出せるのか。ネタがあっても同じぐらいのレベルでいくのならいいが、ほかの3部会が厳しいからとこっちを縮小するのではつらい。

委員

指導内容は結構分割されていて、規範意識や生命尊重は心の部会にも入っているし、体力の部会も大きな表が1個あったような気がする。

部長

バランスを見ながら欠けているところを入れて増やしていくとよい。

委員

では、中間報告で出した6事例を生かしつつ、プラス4事例でどうか。

委員

今回話題になっている根本先生の「がっこうだいすき」は去年出した「この町大好き」と継続しているものか。

委員

生活科の1年の柱が学校で2年が地域なので、生活科の中では継続している。

委員

例えばもし去年の「この町大好き」を整理してくださいと言われてたら何ページぐらい出せるか。

委員

40時間ぐらいあるものなので、何ページでも大丈夫。

委員

では8×8はいけそうな気がする。I期の職業観・勤労観は事例が二つ入りそう。I期の自己肯定感や自立心も何か一つあるといい。そうするとI期は三つ入ってくる。

部長

II期に「マンガ家になろう」を入れなかったら「部活動体験」一つになってしまう。

委員

ここで何かよい事例ができそうですね。やはり8×8=64でどこかが6ページぐらいにしておいたほうが。

委員

なるほど、2事例6ページ2構成にすると8事例で60ぴったりになる。

アドバイザー

事例と執筆者を決めてしまったほうがいい。

部長

特別支援学級のほうは2事例でいい。

委員

2事例6をベースに考えるか、2事例8でいくかだと思う。特別支援は熱い思いがあるので8ページいきたい。

部長

では8ページで。Ⅲ期は野田先生の事例4、総合的な学習の時間の「働くことの意義を理解する」。これはがんばって出していただくことでどうか。では、Ⅲ期については職場体験とリトルティーチャーを入れると一応二つ確保できる。あとはⅠ期とⅡ期。Ⅰ期が「がっこうだいすき」と「この町大好き」になると根本先生が二つ書くことになり、 $2 \times 8 = 16$ で16ページ。

アドバイザー

土台ができているから大丈夫。

事務局

流れとして「1/2成人式」と「私の未来設計図」がつながっていくか。

委員

つながっていく。

部長

「私の未来設計図」-10年後の自分を想像する。これからの生き方（職業等）について考える-は、5、6年生で出てきた話だろうか。

委員

6年生の最後の総合。

部長

これは書かれたのはどなただろうか。

委員

私です。

部長

一人で三つ担当することになってしまう。 $3 \times 6 = 18$ で限りなく20ページに近くなる。三つ同時に作るのはどなたかのお手伝いがないと厳しい。「1/2成人式をしよう」はどなたか何かネタがあるか。

委員

1/2成人式はあちこちの学校でたくさんやっている。

委員

これは特活でよくやる実践。

部長

世古先生に作ってもらえないか。

委員

豊東の福田校長は特活の部長だから、多分1/2成人式の実践はいっぱい持っていると思う。

部長

Ⅱ期にもう一つぐらいほしい。先ほどの「未来設計図」でなくても、中1でもかまわない。小6とか小5とか。例えばⅠ期に「がっこうだいすき」「この町大好き」「1/2成人式」があり、そしてⅢ期が「リトルティーチャー」と「職場体験」が入る。やはりⅡ期が「部活動体験」だけでちょっと薄くなってしまう。中1辺りは何かないだろうか。

キャリアだと職場体験でなく職場の見学となり「この町大好き」に似てきてしまう。もうちょっと立体的にできるもののほうがいいのか。小学校5、6年生でキャリア教育というと、例えば何があるのだろうか。

委員

「私の未来設計図」はまさしくそう。将来に向かってどんな自分になりたいか。あとは家の人に取材したり町のおじさん、おばさんやサッカーのコーチに話を聞いたりしながら、今の自分になりたい自分を比較して見つめていく。

部長

1人の子供の経歴を、ポートフォリオのような形でとっておいて、過去の自分と比較したり10年後を見ることは難しいかもしれない。それなら、Ⅲ期の子どもたちに夢などを語ってもらうほうが分かりやすい。夢や希望は時々刻々変わるものだし、変わっていく。でもそういうものを常に持ち続けることが非常に大事である。10年後の自分ではなく、そういうスタンスが出せれば、「私の未来設計図」もちょっと膨らむ余地があるかと思う。

これはキャリア教育では書けないが小中一貫などに関連づけられるかどうか。あまり無理してもねらいが達成できないかもしれない。

委員

もう一回確認したい。一番上から順に行く。事例として挙げるのは「がっこうだいすき」が根本先生。「この町大好き」も根本先生。「1/2成人式」は世古先生、「部活体験」は高橋先生、それから事例4の「職場体験」は野田先生、そして「リトルティーチャー」は小野先生、それから特別支援の事例5と6で合計8事例入っている。いまバランスを考えたら弱いところがⅡ期であった。

委員

去年の中間報告の「今後の方向性」の留意事項に「次年度は、Ⅱ期の教育活動に特色をもたせ、小中一貫教育のよさを取り入れた指導例を開発していく」と書かれている。これは全体のまとめだろうか。

委員

今のニュアンスでいくと小中一貫のニュアンスが強い。そうすると、キャリアより小中一貫の味付けの濃い実践事例がいい。小中一貫の味付けが濃いとするとやはり5・6・中1の子どもたちが単学年で取り組むより、複数学年でやったほうがいい。

部長

この中間報告書の図を変え、「リトルティーチャー」をⅡ期に入れてしまう。中1と1～4。これをⅡ期におけるリトルティーチャーの取り組みに変えてしまうのはどうか。

委員

事例3のように少し伸ばしてもいいのではないか。「リトルティーチャー」もちょっと上に上げてⅡ期・Ⅲ期のように。

部長

うちは中1と中2で行っている。今の2年生が中1の1月、2月にやり、そしてまた6月にやった。2年はスキー教室や職場体験があったりして二つ入れると忙しくてなかなかできないので、1年だけにしてしまうとか。

委員

野田先生のやっている職場体験も実は1年生が関係している。光四で私もいたから分かるが、1年で見学に行ってインタビューなどをし、2年で実際に体験をしている。

委員

インタビューは斜め右上にある「働く人から学ぶ」だろうか。

委員

そう、これと関係する。

委員

この辺の事例が職場体験につながる。

部長

そうすると野田先生のもⅡ・Ⅲ期で作ろうと思えばできる。

委員

大きく広げようと思えばできると思う。そうすると2年からの実際の体験ではなく、1年生で職場に行きインタビューしているようなものも入ってくれば、プラス2ページぐらいとれる。

事務局

Ⅱ期に重点をと言った時に、一つの教育活動だけではなく、それぞれの教育活動をこの時期に続けていく、重ねていくことで効果が上がるという発想ができるかなと思う。先ほどの「1／2成人式」「私の未来設計図」「中学校ってどんなところ」「働くことの意義と意味」「働く人から学ぶ」「役割と責任の自覚」「職場体験」の辺りを大きな流れで3年間続けていくことで効果が上がる気がした。

部長

テクニカルにはできるが、本当にⅡ期そのものの事例となると「部活体験」以外はちょっとどうか。Ⅱ・Ⅲ期にまたがったら5年間になってしまう。

委員

Ⅱ期の後半の小6と中1に長い四角が欲しい。

部長

Ⅱ期のポイントは中1、中2ではなく本当はそこなのだろう。それで部活が出てきた。

委員

小学校6年と中学1年のところに横に点線を引き、そこに関わる何かを強く打ち出したほうがいい。

事務局

右のほうにある道德の「役割と責任の自覚」という視点で、小5、小6、中1辺りでできるかなと思ったが、どうだろう。

部長

児童会と生徒会の連携は難しいか。

事務局

その辺もポイントになる。

委員

小学校も中学校もそれぞれ特別活動の中に活動内容としてあるので、それはおもしろい視点だと思う。

部長

ボランティア活動や奉仕、例えばエコ活動など一緒に取り組めるような何かを見つける。うちは上小と一緒にペットボトルの蓋を回収している。去年、小学生がものすごい量を持ってきた。こちらは生徒会の役員がやっていて、向こうも児童会か何かをやっているのだろう。だから生徒会と児童会が協力した形のエコ活動とかボランティア活動など、何かできないか。

ただ社会に役立つ喜びをともに味合うという意味では、Ⅱ期の「役立つ喜びを体得する」や「社会との接点」が6年生と中1あたりでできればと思う。生徒会活動、児童会活動などでこれだと売りになるものはそんなにない。

委員

児童会の中には全校集会活動、委員会活動、代表委員会の活動の3種類があるが、基本的には自分たちで学校生活の課題を見つけて話し合いで解決する活動なので、キャリア教育を下ろしていくのは、特別活動の発想からするとまずいところがある。

部長

あとは行事や奉仕的活動で連携するような行事連携か何か。

委員

例えば桜小中はこれまでもずっとクリーン運動を連携してやっている。私がいた時もよくやっていた。中学生のお兄さん、お姉さんがグループの中に入り、小学生と一緒に地域清掃をする。

事務局

クリーン運動を入れるか。

委員

桜はこれまでもずっと小中一緒にやっている。

部長

「役立つ喜びを体得する」というのをその辺で出せないか。高橋先生と安井先生で考えてもらえないか。

委員

高橋先生から情報をもらえば整理する。

部長

では一応取りまとめを安井先生になってもらう。

委員

私が見たときは、中学生が来てくれて朝礼台の上で説明していた。また、中学生が何人か各学年に入って、例えば重たいごみは中学生のお兄さんお姉さんが運んだりして協力していた。

委員

それで十分。大きな柱になるかもしれない。「マンガ家になろう」は捨てたのか。

委員

無理だと思う。表の「リトルティーチャー」の四角が上に伸びる。

部長

Ⅱ・Ⅲ期でこれを作ってしまう。7、8年生に戻せばいい。

事務局

では今日のところはこの9事例をこの分担で進めていくということにしたい。一応全体のイメージが共有できたかと思う。せっかくなので事例に移っていく。

委員

準備ができていない。ただ、前回お話しいただいたようにパソコンの授業を紹介していき、それから評価基準表とか、子どもたちが達成していく自己評価表の充実を図る。今日8ページいただいたのでその線に沿って進めていきたい。

委員

6ページではないのか。

事務局

基本が $6 \times 9 = 54$ 。8ページにしても吸収はできる。

委員

九つの事例のうち3事例分だけプラス2でいける。

委員

6ページでまとめようと思えばまとめられるし、8ページと言われれば、資料の写真の大きさなどを工夫してそこまで引き伸ばせると思う。

事務局

すぐ使えるワークシートが多い事例については8に伸ばせる。ないものを無理して伸ばすことはないと思う。

アドバイザー

では3事例分が8ページで。それも決めてしまえばいい。「リトルティーチャー」は8ページにする。本当はⅡ期を一番充実させなければいけないが。

委員

「リトルティーチャー」がⅡ期に入った。あとはクリーン運動か。

委員

多分クリーン運動はワークシートがないと思うので、6ページも書けるのかという気がする。

アドバイザー

望月先生が8でいくと言っているので「リトルティーチャー」は8ページで、「がっこうだいすき」は受け側が「ようこそ1年生」なのでこれも8ページいける。

委員

「ようこそ1年生」の具体的な活動が分かれば8ページでも大丈夫。まず時間枠が分からないので、何の時間にどういうふうにするのかが分かればそこを付け足して8にできる。

部長

「ようこそ1年生」の受け手は1年でも2年でも3年でもいいが、5人に1人ぐらい中学生がつき、ルートが決まっていてここは職員室だよとかここは技術室だよとか紹介する。

委員

特活の異年齢活動。

委員

準備から含めて特活で何時間ぐらいか。

部長

回ってしまえば1時間で終わる。しかし、準備を誰がどうするか。たいてい小学校の先生は1年生にそこで何かを学ばせたいわけだから、1年生なりのねらいがある。そのねらいは例えば中学生にこんなことを話してもらいたいとか、1年生はこういう質問を用意して投げかけるかもしれない、そういう想定が出てくる。最後はこんなことが分かったよと「分かったよカード」といったものを使って、まとめをするのか。

委員

小学校ではそうだが、中学校のほうは例えば特活の中の話し合い活動など、ちょっと分からない。

アドバイザー

難しくなるので書かなくていいのではないかな。要するに1時間使って小学校1年生を中学生が案内するスタイルで作ってはどうか。

委員

では、中学のほうは特活の枠に触れるぐらいにする。それだったら大丈夫だと思う。この間、町探検で中学に行ってきた子どもたちは、国語と算数で違う先生がいるんだと大興奮だった。

アドバイザー

当然そういう反応が出てくる。小学校の中を探検するだけでも興奮するのだから、その延長で中学校まで行く。スケールは大きくなる。まさに一貫校ならではの実践になるのでそれでいいのではないか。

委員

そうすると「がっこうだいすき」が8ページ、「リトルティーチャー」が8ページ、あと1事例8ページのものはないか。

アドバイザー

望月さんが8ページ書く。あとの事例を6ページにすると、ちょうど60ページになる。

事務局

根本先生、前は時間がなかったが「ともだちいっぱい！がっこうだいすき」に何かつけ加えることはあるか。

委員

少し作り変えてきた。文章で書くのか表組みか、そういう書き方をいま確認していただければと思う。前は一番最初の「本事例とキャリア教育との関連」に表を入れたが、今回ははずして文章にした。このスタイルでよいだろうか。1ページ目は全部、タイトルがあって文章の形にした。あと、2ページ目の本事例の概要に小単元の目標を入れたがこれでいいかどうか教えていただければと思う。

事務局

前は「本事例とキャリア教育との関連」のところを表の形で整理していた。ここは皆さんで協議していただければと思う。

部長

枠は別にして、根本先生のこの間の表を見た時にキャリア教育に関わる内容と生活科との関連の二つが書いてあり、それはそうだなと思った。キャリア教育は時間のカウントがないので、リトルティーチャーも総合的な学習のねらいや学習内容、配慮事項の関係も必要かなと思い、ちょっと考えてみた。その辺「本事例とキャリア教育」になればキャリア教育だけでいけるか。

事務局

基本的には一番初めのねらいに、それぞれ対象となる教科のねらいがきちんと書かれていると位置づけがはっきりする。

アドバイザー

文章で書いたほうがほかの人たちも書きやすいかもしれない。それよりもその下の⑤「本事例の小中一貫校における効果」は「一貫教育における効果」とどちらがいいのか。

事務局

「一貫教育」のほうがいい。

委員

「小中一貫教育における期待される効果」にする。

部長

「中学生」という言葉をどうしようかと思った。「I期の子どもたち」という言い方もなかなかしにくく、今は暫定的に「1～4年生」のような言い方をした。「中学生」とも言えないので「上級生」のような言い方でごまかしたが、何かいい言葉があるか。

事務局

これはほかの部会にも関連し、原稿を全部並べた時に用語を統一する。だから現段階ではあまり気にしないでいい。確認だが、本事例とキャリア教育の関連は文章でまとめる。また、学年の表示は今はそれぞれの書き方でまず書いていただく。

委員

本事例の概要はこの大きさがいいか。もっと縮めないと駄目か。20時間もあるので1ページ目いっぱい書いてしまったが、こんな形でいいか。

事務局

指導計画はしっかり示したほうがいいということだった。

アドバイザー

「ねらい」は「単元のねらい」として表現したほうがいい。

委員

概要なのであえてそこははずしたが、キャリア教育の評価はどうしたらいいか迷った。

委員

限られたスペースで言いたいことを伝えなければいけないので評価を入れるのは苦しいと思う。ねらいがあれば入れないでいいと思う。

アドバイザー

評価の観点を入れると来年から指導要録が変わるのでややこしくなる。生活科は変わらないが、社会、理科、数学と音楽が変わる。あと総合はあまり変わらないと思うが、理屈のうえではもう一回学校で観点を作り直すことになる。理科と社会、数学の事例はないのであまり影響はないか。

委員

根本先生が作ったものが多分これからのベースになっていくと思うが、③のねらいは今の書き方や表現からすると児童・生徒の動きで、教師のねらいではないのではないかと。

委員

そちら側で書くのであれば「伝えることができるようにする」にする。児童の達成するねらいにするのか、それともこちら側が身につけさせたいものにするのか、それによってそろえて書く。

委員

もし指導者側の観点で書くとすれば「伝えることができるようにする」とか「探検したりすることができるようにする」「気付くことができるようにする」。それは教師側のねらいの表現になる。ただ文字数を少なくするならばこのほうが簡潔である。

委員

④はすべて教師としての視点で、③も教師としての期待される効果なので、それは統一したほうがいい。

事務局

今後の作成ではねらいの部分は指導側の観点から書くことにする。

委員

⑤は「期待される効果」という表現でいいのか。「本事例の小中一貫教育における期待される効果」の「期待される」ははずしたのか。

事務局

「期待される」を入れる。では野田先生、事例4の「職場体験」をお願いする。

委員

前回、前々回出席できず、送られてきた根本先生の項目に沿って書いてきた。上から順に、②実施学年・指導時数は「中学2年 20時間」で、去年は19時間で書いたが事後指導に1時間増やして20時間にした。③のねらいと④は去年と全く同じ。

⑤の本事例の小中一貫における意義はどのように書いたらいいかよく分からなかったが、いま伺ったところ、本事例の小中一貫校における期待する効果を書かなければいけないことが分かった。

⑥は前の実践事例では書かなかった部分なので、去年のまとめの冊子に載っている部分、あと表になっているこの部分を見て、小学校の段階、要するにⅠ期・Ⅱ期でどんなことをやっているのかを見るしかないと思った。膨らませるのにいろいろ助言していただくと助かる。

第Ⅰ期の小学校1年から4年生のところでは、地域の体験学習を通して働く人への関心を深める。ここに「牧場体験学習」や「この町大好き」があったので、その辺を見て地域で働く人

を理解する。ここには「働く人への感謝の気持ち」と書かれていたが、キャリア教育では感謝の気持ちというよりも働いている人がいることを理解してほしいと思い、うまく書けずに「働く人への関心を深め」になってしまった。

第Ⅱ期の「私の未来設計図」は、働くことの意義・意味を働く人から学ぶようなことをしているので、「社会人と仕事について、職種について理解を深めたり、10年後の自分の生き方を考える」のような感じで書いた。

要するにⅠ期とⅡ期は、世の中で働く大人の人たちの近くに行き、だんだん広げていって世の中にはこんな仕事があって大人はみんなこんなことをやっているのだと、「働く」ということを、第三者的という言い方は変だが、知識として理解してきた。ただ、今回の職場体験は、実際に働いている時間帯に行き、実体験として働く大人を見ながらその一端を自分もやらせてもらう。各自の感覚でそれをとらえられるのがこの第4事例の意義ではないかと思い、そんなことを書いた。

さらにここで終わらずに、9年間の最終学年の中学3年生では最終的に自分の進路決定をしていかなければいけない。いよいよ自分のキャリアを考えていくということで、そこにつなげていかなければいけないのかなと思って書いてみた。とても短くて紙面が余ってしまい困っている。この辺の書き方をどうすればいいかいろいろ教えてもらいたい。

2枚目の⑥本事例の概要は根本先生が20時間をどういうふうにするかを細かく書いていたので、そういう感じで20時間を分けて書いた。

それから⑦の資料（自己紹介カード）は、この間の議事録を見るとアドバイザーの先生が即使えるようになっているとみんながよく見るのではないかと言っていたので、もう少しきれいにレイアウトしなければいけないが、とりあえずこんな形にしてみた。

流れを見るとそんなに入れるものはないが、最初の事業所との打ち合わせの時に、ただ行くだけではなく事業所を選んだ理由とか、もしこの事業所で体験させてもらえるならばこんな仕事を希望したいとか、子どもの気持ちを書くカードを載せたほうが良いと思い、1番に紹介カードを載せた。

それから2番目（職場体験アンケート）と3番目（生徒評価表）は体験1日目に生徒が事業所に持参するもので、生徒がやるというより事業所に書いてもらう。2番目のアンケートは教師が来年度の職場体験をさらに充実したものにするために事業所とコンタクトを取り、改善しなければいけない点を返してもらうためのもの。

3番目の生徒評価表は子どもにフィードバックさせるもの。中学生は教師から言われたことは素直に聞けなくても、ほかの大人から言われたことは目からうろこではないが素直に「そうだったんだ。直さなきゃ」と受け止め、すぐくためになる。

3番目のシートは2日間の実習が良いとか悪いというよりも、これから先、子どもたちが社会に出ていく時にこんな部分を磨かなければいけないとか、注意しなければいけないということに気づいて、子どもにとっては変化するきっかけとなるもの。各学校の先生たちが使う時にいろいろ工夫すると思う。2、3は実際に子どもが書くものではない。

4番目（職場体験記録用紙）は帰ってきた後、子どもが自分の体験を同じ学年の子どもと共有するための記録用紙。自分が行けなかった職種がどんな感じかも見られるし、自分自身もう一度振り返って書くことにより、あの時あんなことを言ってもらって本当によかったとか、これはためになったとか、そういうことを書かせる用紙。

この4枚を工夫すると、子どもも我々もいい体験だったなとわかるし、次年度にもつながる部分なので、載せたらいいと思って書いた。

事務局

原稿を肉付けしていくためのアイデアが欲しいとお話があった。

委員

このワークシートのとらえ方だが、最終的にCD-ROMに掲載するとの話がある。多分子どもが実際に記入したワークシートを冊子に載せ、CD-ROMには空のものを入れるのかなと思っていた。

委員

私は議事録を読んでこのまま即使えると思って作ってきた。

事務局

ワークシートはすぐそのまま使えるものという発想。

アドバイザー

ワークシートはこの野田先生のものでいいと思う。ただし3ページの2番、事業所に生徒が持参するアンケートのワークシートが途中で切れている。これも1ページごとにして、ワークシートを4ページにすればいい。内容はともかくとして、指導計画のフォーマットは大体これでいい。一番初めのページに、先生は書けないといったが、今までの職場体験の実践などでどんなことをやって生徒にどんな反応があったのか、その辺の紹介を④、⑤辺りにちりばめて入れるといい。

部長

子どもの声や感想、事業所の声、苦労した担任の先生の声などが大切である。

事務局

その辺から言うと、野田先生のワークシートは、実際に生徒に配る紙そのものではない。例えば資料1は、A4の1枚になっているものが別にあるような気がするが。

委員

私が使っているものをそのまま1枚持ってくるとB4。

事務局

それはB4をA4サイズに縮小して載せるなどサイズを変更する。

委員

野田先生も書いていたが、これをどうやって使うのかという説明をここに書いたが、これは要らないか。

委員

必要な気がする。

委員

ないといったどういうふうにするのか分からない。そうするとコピーする時はここを切って印刷してもらおう考えで入れてかまわないか。

委員

ワークシートの数にもよるが、1枚はそのまま使えるものにして、もう1枚はフォーマットに噴出しのようにしてここはこんなふうにするといったことを書いてはどうか。

部長

よく赤本のように教科書に書いてあったり、指導書みたいになっていたり。ああいうページが1ページぐらいどこかに入るかもしれない。

アドバイザー

事例の概要の指導上の配慮事項のところに米印か何かで「ここでこのワークシートをこのように使う」という感じで入れられないか。

委員

入れるには入れたが、結構目一杯になってしまった。

委員

実践をすべて伝えることは難しいと思う。例えばワークシートが3枚ある中で3枚とも紹介するのは難しく、例えば本当にポイントとなる、キーとなるようなワークシートを一つ選んでその使い方を丁寧に伝えるとか、そういう制限が出てくるのはやむを得ない。

アドバイザー

大事なのは指導計画を見てもらい、こんなふうにするかイメージしてもらえるかどうか。野田先生の原稿ならば、いま言った④と⑤のところに今までの実践の反応や、授業中にどんなことを言ったかとかそういうことを付け加え、2ページ目の事例の概要の指導上の配慮事項のところにワークシートを使う場所を入れる。

1番のワークシートはこの場所とか、使い方が少し書けたら書く。今日最初に出ていたが字数が40字、行数が45行なので、設定しなおせばもっと文字が入ると思う。それからあとワークシートはとにかく1枚ずつ。もったいないと思ってもそのままコピーして使ってもらえるようにするとちょうど6ページになる。それでは次は高橋先生の「部活動体験」か。

委員

1枚目の3番はねらいで、小学校の先生方にとってどういうものか、また児童にとってどう

いうものかを4番目、5番目に付け加えていった。裏にいき6番は6年生が部活動に対して考えていること、期待していることは何かを実際にこんな形で2クラスに書いてもらった。今のところそれをまとめたけど、期待すること、心配なこと、楽しみなこと、さらにいま入部していない子が部活に対してどんな期待をしているのかという欄を作ってそれを拾った。

それから3ページ目の7番の留意事項は、前は「小学校のクラブ活動と中学校の部活動の違いに十分留意すること」だけだったが、イ・ウ・エを追加してア・イ・ウ・エとした。具体的には小学校のクラブ活動の時間を部活動の時間として確保できるようにすることによって、そこで相乗りができるようになる。時程の組み方が非常に難しく、かつ中学校では今度プラス1時間、29時間単位になっていくことからその捻出が非常に難しい。

ウは小学校の先生も顧問ができるようにする。それから小学校と中学校両方の施設を十分活用できるようにする。中学校の体育館は非常に込み合っているんで、小学校の体育館を借りる。いま実際に体育館は放課後の開放などで使い始めているところがある。それからコンピュータも小学校は20台しかないが中学校は40台あるということで、その辺をうまく調整できるのではないかな。

最後8番目の入部カードと部活動のガイドラインは前にあったものと同じもの。右側の9番に具体事例として吹奏楽部、硬式テニス部、バレーボール部、野球部を取り上げてみた。吹奏楽部については小学校の先生が移動され金管バンドがなくなってしまったが、それを吸収して活動することで地域の行事に参加できるようになった。また小学生が増えて編成が大きくなり、学園桜中の生徒はいないが楽器だけはいっぱいあるので、眠っている楽器が使えるようになった。

硬式テニスについては前から関東大会、全国大会に行っている子がいるので、そういう子を見て小学生がこんなふうになったらいいのだと見通しを持って活動できるようになった。そうした4点を具体事例としてあげる構成になっている。

部長

小学生の部活動についての「振り返りカード」があると、子どもたちにとって部活は初めてなので非常に新鮮に映る。これは自由記述式か。

委員

アンケート形式になっているものがある。

委員

「振り返りカード」のような、どんな活動をしてきて、ある程度のスパンの中でこういうことができるようになったから次にこうしていきたいとか、よく総合で使っているようなシートは現在のところない。だから、子どもたちがどのように活動に取り組むのかという面で、やはり活動記録と振り返りカードのようなものは必要だと思っている。だが、中学校の部活動自体、それをやっているところは限られている。せいぜい部活ノートをつけさせている先生がいる程度。

事務局

全く別の角度の質問で、小学校の先生方にも答えてもらえばいいと思う。小学校で金管バンドやサッカーチームなどが、クラブ活動ではなく部活動として活動している例があると思う。そういうある意味小学校における部活動と中学校の部活動の位置づけは、小中一貫になった時にどう考えたらいいか。

委員

まず私の勤務する大泉小学校では、時間の枠がないので課外で金管バンドが朝練などを行っている。あと、サッカーや野球もやはり課外で土日や放課後に練習がある。金管バンドについては本校の音楽専科が関わっているが、サッカー、野球については完全に学校とは別の動きで独自にやっている。学校は場所の提供だけ。

事務局

桜小学校、桜中学校の中でもそういうものはあるか。

委員

サッカー、野球の運動系については地域のものがある。SSC という団体が土日や夏休みに体育館やプールを使って、小学生も中学生も入った活動をしている。

事務局

部活動体験は5、6年生だが、金管バンドなどは5、6年生が小学校の先生の指導の下で行っていたりする。そういう教員が指導している小学校の活動がもしあった場合には一緒にやるのか。部活動体験はまた別に考えていくのか。

委員

いま相乗りという言葉が出たが、小学校のクラブ活動の時間と中学校の部活動の時間を同じにして行うことを考えている。小学校側は、教育課程上、特別活動の中のクラブ活動という位置づけで行われ、中学校の部活は特別活動にはないのであくまでも課外で行うことになる。

委員

もし小学校に金管バンドがあったらどうなるのか。先ほどのように朝練や土日もあるとなると、活動日が重複していなければ来て活動してもいいですよとなると思う。いま人数が少ない関係で複数部活という制度にしている。いわゆる主たる部活と副の部活で、主たる部活が行われている日は主たる部活に参加し、その活動がない時には副の部活に出てもいいですよという扱いにしている。

委員

授業があるところでは時間の提供ができないので、課外で朝練と土曜日に練習している。だから逆に相乗りはおもしろいなと思う。

事務局

前回は話したがこの辺の可否についてはまだ結論が出ていない。ここで協議してもストップがかかることも考えて進めていかないといけない。もう一つ、部活動体験は小学校の特別活動、学級活動という感じで、クラブの時間ではないのか。

委員

二つの側面があると思う。まず「中学校ってどんどころ」という進学への不安を解消するねらいの一つとして部活が学級活動で行われている。部活はクラブ活動の延長ではないから、それが一番メインではないかと思う。

一方、例えば同好の子どもたちが集まって自分たちで活動計画を立て、自主的・実践的に活動を進めていくねらいの下に行われるクラブ活動と中学の部活は、ちょっと似た面があると思う。だからそれを参考に、自分たちももっとがんばっていこうという意欲づけ、動機づけにはなるかなと思う。

ただメインは、中学校進学への不安を減らしよりスムーズに中学校へ上げるための進路指導の一つと押さえていいと思う。

事務局

そうするとこの「部活動体験」はここに書いてあるように5月ごろ、5年生は9月という特定の時期に体験的に行うことで、クラブ活動として年間20回なり継続的に活動することを想定した事例にはしないということか。

委員

クラブ活動には年間20回自分たちで活動計画を立て自主的に活動し、その中で自主性を育てるねらいがある。ただ一貫校の特色で、もしかしたら中学校への見学がフィードバックされて小学校の自分たちの活動がより豊かになるとしたら、それはそれでおもしろいと思う。

部長

これは難しいところ。例えば部活動体験という限られた体験期間があり、それはほとんど必修で行う。でもその期間が終わった後もそのまま引き続きやりたい児童は、部活動体験で1年間というわけにはいかないのだから、課外活動的に例えば10月、11月、12月、1月、2月と継続する。そうしないと、このねらいの「4年間の継続的な活動を通して」の達成ができない。だから体験プラス課外活動の含みを持たせた教育活動として小学校の活動を考えないと、どこかで無理が出るかもしれない。

委員

小学校のクラブ活動の時間と中学の部活が同じとすれば、小学校のクラブ活動は必ず参加しなければならないことになる。

部長

それが体験でいいのかどうか。

委員

いま小野先生が言ったことは、せっかくそういうきっかけがあるのだから小学校の子どもたちが自由に継続的に参加できるとよりよいという話。それもおもいしろいと思う。

部長

例えばサッカーが両方にあり、クラブがちょうど重なればカウントできるのか。でも小学校のクラブ活動の時間数も限られている。

委員

基本的には年間 20 時間以上。

アドバイザー

あとどういうクラブを置くか。小学校にあって中学校にない、逆も出てくる可能性はないか。

委員

例えば中学校には今年はペーパークラフトと美術がある。そういうものは今のところ小学校にはない。それから小学校にあってこちらにないのはコンピュータ部。

アドバイザー

お互いにそういうところに入りたい、やってみたいと思えば成立させていい。

委員

例えば小学校のクラブ活動が木曜日にある場合は、そこには全員必ず参加しなければいけない。その他の活動について 7 年生以降は参加するけれども小学生は参加しなくてもいいとなるのか。

部長

参加してもしなくてもいいと思う。では、小学校についてはあくまでも 20 時間のクラブ活動がベースになって動いているということか。全児童が 20 時間はそれで消化する。

委員

隔週ぐらいか。

委員

月に 3 回ぐらい。

委員

それはクラブとして評価を出すのか。

委員

教育課程外と同じような扱いで、評価をしている学校もあるかもしれないが、うちは1年間の計画と自己評価ぐらい。

事務局

学級活動と同じ考え方をすればいいと思う。中学校も学級活動はいちいち書かない。

委員

学級活動（1）と同じ。学級活動の時間があり、クラブ活動や委員会活動もあってその子へのコメントは書く。通知表などに特別記述する場合もあるが、そんなには書かない。

部長

5年20、6年20、合計で40。

委員

4年生も20。

部長

4年も20？ 4年生のクラブ活動は別にやるのか。

委員

小学校は4年以上が一緒。

部長

これだと5、6年生。4年は別格に扱うのか。ただクラブ活動自体は4～6年が一緒に活動する場面があり、木曜日の6時間目に4年生も居る。4年生はこの中には存在していないけれども活動の中には居る。でも4年生はほかの日に一緒に部活をするのは駄目だと。

委員

小学校のクラブはクラブでやってもらい、中学校の部活をやっている中に小学生が入り込んできてもいい。小学校5、6年生が放課後の校庭開放に来るという扱いにしていったほうがいいのかなと思う。

委員

中学生側は迷惑ではないのか。例えば大会か何かが目前にあると。

部長

いまは1年生と4～6年はボール拾いなどをしている。そして7月辺りから2、3年が中心で1年はまずは様子を見る感じ。1年ですら初めてやる子が多くてそうだから、5、6年が来るとなるとやってみなければ分からない。

委員

これは何度も話すのだが、実際問題とにかく生徒がいないので、個人種目はいいがチームスポーツは成立しない。いま私は野球部を受け持って2年目で、全部で24人いる。でも3年が抜けたので24マイナス17。そのうち6年生が11だから、6年生が来ないと練習できない。かつ、主たる部活は2人しかいない。あとはみんな副部活。桜中の場合、今のところ2クラス・2クラス・2クラスの編成を考えているかと思うので最大で80名。そんなに大きな規模にはならないのでやれるかなと。

委員

逆に5、6年生の段階で部活に取り込んでいけば必ず来る。

委員

ただ指導してあまりうまくなりすぎると、例えばバレーボールではいま大泉北が強いので大北中に抜けてしまうとか。せつかくここまで育てたのに行ってしまったということも出てくるのではないかと思う。人数がいてそれなりの実績を作っている学校となればそっちにいつてしまうかなと。野球の話をしたが、いま学園中さんが結構いい結果を残しているので、一緒にやっても学園中に行ってしまう。

委員

中学校の実態で言うと、いま1年生の球拾いの話が出たが、バスケにしても野球にしてもサッカーにしてもメインになる4競技について、強い学校はやはり小学校のベースがある。小学校のクラブチームでやってきた子たちが上がってきて即実践で使えるような状況の学校が強いかなと見ている。

事務局

話がクラブ活動、部活動全体に広がってしまったので、高橋先生の事例の原稿のほうに戻る。これを「部活動体験」としてまとめていくことの確認と、それから基本は6ページ構成でいくと再確認したので、高橋先生のこの原稿を5～6ページに近づける方向で何かアイデアや意見があればお願いしたい。

委員

4番の本事例とキャリア教育の関連で例の標語を三つ出してくれたが、これを出してこういう形で整理するのであれば、情報活用能力も入れて四つ出したほうがよい。例えば2番ぐらいに「さまざまな体験を通じて自己の生き方を考えるとともに、情報を取捨選択する力を身につける」と入れて、四つの柱を意識するような表現にしたほうがいいのかと思う。根本先生のように文章でさらっと整理してもいいが、三つ出すのは中途半端。

委員

私は欠席したのが練馬区の進路指導者研修会の時に、4領域8能力の運用上の課題が出てい

た。中教審の特別部会の中で無理やり8能力パズルを入れている傾向が見えてきてちょっと課題になっていたのも、入れないほうがいいのかと思った。

部長

ただ「そもそも論」でいくと、3本入ったから4本入るというその論理はやはり無理がある。だから逆に、私としてはこの言葉自体もう少しやわらかい言葉で入れるか、あるいはとってしまったほうがいいのかと思う。あえてまたこのレベルに下げることはない。

委員

書く段階でキャリア教育との関連を考えた時にはやはりここに戻る。

事務局

折衷案として、高橋先生のこの原稿の括弧の部分は言葉を抜いて内容を生かしていく。

委員

ねらいの進学不安の解消の辺りに、先ほどいただいた小学校のクラブ活動の話が加わるということと思う。

部長

4年間とは何年から数えてだろうか。

委員

6年から数える。5年は9月にオリエンテーションをやって、スタートを11月頃に予定している。

部長

先ほどのそもそも論でちょっと分からなかったが、クラブ活動は4年が20、5年が20、6年が20、その中の4年の20は除外ということであれば、どこかに排除事項か何かを書くのか。私は一瞬5、6年かと思った。4年から始まっている。「小学校クラブ活動：教育課程内、授業時間に組み込まれて実施、全員参加」とあるこの「全員」というのはそのまま読んで4年生から。だから4～6の4年生がいる中に中学生が入ってくる可能性もある。

委員

小学校のクラブ活動に7、8年生などが参加すると、4年生も体験することになる。

部長

行かないけれども、来るので逆に体験させられる。

委員

でもこれは桜が5年生を中学校の校舎に移すのを踏まえての5年からなのか。

委員

一応そうだ。それからあと体力的な部分も考えた。

部長

いろいろ錯綜している。切り方も1・2・3・4年だから、実態を考えると仕方がない。あえて実施学年に5年と6年が明記されているので、ここでは5年と6年の話しかしない。4年は想定外ということで。4年生のクラブは難しいか、4年と6年の差は。

委員

だからそこが一つのねらいでもある。6年生に4年も活動できるような異学年・異年齢の集団を作ってやりましょうと。結局、クラブの活動は技能や技術を高めるのがメインのねらいではない。

部長

確かに異学年交流のような感じ。そうすると1番目に「体力の増強、技能の練磨向上」を図ると出すのはちょっと苦しいところがある。2番目の「好ましい人間関係の育成」を1番目にしたほうがよい。

アドバイザー

そのほうが特活の趣旨に合う。

事務局

質問だが、「部活動体験」のこの事例は中学校側から見るのか、小学校側から見るのか。ほかの事例はわりとそのスタンスがはっきりしている。小中一貫だからどちらでもよいという考え方もあるが、その辺でねらいの書きぶりが変わるかなと思う。

委員

原稿を書く高橋先生が書きやすい「受け入れる」というスタンスで書かざるを得ないのではないか。

委員

やはり中学校サイドの書き方になると思う。

事務局

最後に、資料が8、具体事例が9とあるが、この辺も1ページずつページ使ってもらい、広げていくと見やすいと思う。

委員

先ほどヒントをいただいた活動記録ないし振り返りシートのようなものも作ってみる。実際

にいま夏休みを目の前にしているので、各部の1年生にどんなことができたか、どんなことをやってみたいか聞いてみることになっている。今のところ口頭で聞くだけだが、それはシート化できるかと思う。そして夏休みの活動の中でこんなことをやりたい、こんなことができるようになりたいということを明らかにしようとの話が出ているので、作れると思う。

委員

自分のこだわりとして9の具体事例の矢印が下に下がっていくのはすごく違和感がある。大きな目標に向かって矢印は下から上に上がったほうがいいと思う。

事務局

作りながら検討していただくということでよいか。

今回このキャリア教育の推進の部会では9事例をまず作っていこうと確認したので、その辺りを確かめて終わりにしたい。

特別支援学級の教育活動を望月先生、飯塚先生がそれぞれ1事例ずつで2事例。そして、小野校長先生の「リトルティーチャー」、野田先生の「職場体験」、それから根本先生の「がっこうだいすき」と「この町大好き」を別々に取り上げる。それから高橋先生が「部活動体験」、久世副校長先生が「1/2成人式」をまとめる。新たに「クリーン運動」について安井副校長先生がまとめになるが、高橋先生にも協力いただく。全部で9事例について執筆していきたいと思う。次回の場所の案内も高橋先生に青いプリントでいただいている。今回は特別支援学級の教育活動と新たに加えた事例の協議などができたらいいかと思う。